

問1 鎌倉幕府が「六波羅探題」という機関を新たに設置した目的と、その背景にある出来事の説明として最も適切なものを選びなさい。（2016年 茨城県公立入試 類似）

1. 後鳥羽上皇が倒幕の兵をあげた承久の乱の後、朝廷を監視し西日本の統治を強化するため
2. モンゴル帝国の襲来（元寇）に備え、九州沿岸の警備と西国武士の指揮を執るため
3. 源頼朝が征夷大将軍に任命された際、京都の公家との外交交渉を円滑に進めるため
4. 室町幕府の内紛である観応の擾乱を受け、京都の治安維持を専門に行うため

問2 鎌倉時代の歴史の流れを記した略年表において、北条泰時が武士の裁判基準として「御成敗式目（貞永式目）」を制定する約10年前に発生した、幕府の支配権が全国に広がる決定的な契機となった出来事を選びなさい。（2018年 静岡県公立入試 類似）

1. 後鳥羽上皇が幕府打倒を計画して敗れた承久の乱
2. 崇徳上皇と後白河天皇が対立した保元の乱
3. 平氏と源氏が京都で衝突した平治の乱
4. 北条氏が他の有力御家人を排斥した宝治合戦

問3 鎌倉時代の封建制度の根本となった「御恩と奉公」の仕組みにおいて、御家人が命をかけて「戦いに参加」した背景には、將軍から与えられた「御恩」という強い動機がありました。この「御恩」の具体的な仕組みについて説明したものとして、正しいものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）

1. 先祖伝来の領地の支配を認めたり、戦功に応じて新しい領地を与えたりすること
2. 全国の武士を統制するために、一国ごとに守護を任命する権利を全ての武士に与えること
3. 朝廷から高い位階である関白の職に任命してもらえよう、將軍が仲介すること
4. 自分の領地で行われる商業活動に対して、幕府が一切の税を免除して自由貿易を認めること

問4 源頼朝が1185年に地頭や守護を設置する権利を朝廷に認めさせた、歴史的な背景や目的として最も適切な説明はどれか。

（2016年 奈良公立入試 類似）

1. 源義経の追捕を名目に、全国的な軍事・警察権と徴税権を掌握するため
2. 元寇による国家的危機に際し、九州沿岸の警備を強化するため
3. 承久の乱で勝利した結果、西日本に控えていた朝廷勢力を監視するため
4. 守護大名の権力増大を抑え、將軍による専制政治を確立するため

問5 鎌倉時代の政治体制において、北条泰時が御成敗式目を制定した目的やその内容について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 佐賀公立入試 類似）

1. 武士社会でそれまで行われてきた慣習を整理し、公平な裁判の基準を示すため。
2. 元の襲来に備えて、御家人たちの団結を強めるための軍事的な規則を定めるため。
3. 朝廷が定めた律令制度をより厳格に守らせ、貴族と武士の身分を明確にするため。
4. 江戸幕府が開かれた際に、大名を統制するために出された領地管理の法を参考にするため。

問6 鎌倉幕府が、御家人の義務として「京都の警備」を重視した背景や目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年 長野県公立入試 類似）

1. 朝廷のある京都の治安を維持し、幕府の警察権を誇示することで、朝廷に対する支配力を強めるため
2. 室町時代に発達した商業や手工業を保護し、京都を通る物資から通行税（関銭）を徴収するため
3. 御家人を定期的に京都へ交代で赴かせることで、経済的な負担を与えて反乱の芽を摘むため
4. 分割相続によって領地が細分化された御家人に対し、京都での新たな領地を与える機会を作るため

問7 13世紀に起こった「元寇（モンゴル帝国の襲来）」の背景と、当時の幕府の対応について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2026年 群馬公立入試 類似）

1. 執権の北条時宗が大陸を統治した元からの服属要求を拒否したため、二度の襲来を招くことになったが、九州の沿岸に石築地を築くなどして防戦した。
2. 執権の北条泰時が大陸との交易を制限したため、これに反発した元軍が襲来したが、幕府は武力ではなく外交交渉によって紛争を解決した。
3. 執権の北条時宗は元軍の襲来を予測して大陸へ先制攻撃を仕掛け、大陸沿岸部の一部を領土として獲得することで幕府の経済基盤を強化した。
4. 鎌倉幕府は元の要求を受け入れて一時的に服属したが、足利尊氏が元軍の拠点となっていた博多を奪還したことで、日本の独立を維持した。

問8 鎌倉時代には、武士の力強さや民衆のエネルギーを反映した、写実的な表現を特徴とする文化が展開しました。この時代の文化を代表する作品として、快慶らとともに東大寺南大門に設置された、筋骨たくましい肉体美を持つ金剛力士像を制作した中心的な人物は誰ですか。（2022年 新潟県公立入試 類似）

1. 運慶
2. 雪舟
3. 一遍
4. 道元

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 後鳥羽上皇が倒幕の兵をあげた承久の乱の後、朝廷を監視し西日本の統治を強化するため	承久の乱以前の幕府は、主に関東を中心とした支配を行っていましたが、乱の勝利によって西日本にも大きな支配力を持つようになりました。朝廷による倒幕の動きを二度と許さないよう、監視の拠点として六波羅探題を設置し、西日本の地頭の統制や裁判も担わせることで、幕府による全国支配が強まるきっかけとなりました。
問2	<b>答え 1</b> 後鳥羽上皇が幕府打倒を計画して敗れた承久の乱	1221年の承久の乱によって幕府が朝廷に対して政治的な優位を確立し、支配力が全国的に拡大しました。この政治的な安定と支配の広がりを背景に、1232年に北条泰時が御成敗式目を定め、武士社会の秩序を整える段階へと移行しました。保元の乱や平治の乱は平安時代末期の出来事であり、時代設定が異なります。
問3	<b>答え 1</b> 先祖伝来の領地の支配を認めたり、戦功に応じて新しい領地を与えたりすること	将軍と御家人の関係は、互いの利益に基づく双務的な側面がありました。御家人が「奉公」として重い軍役を果たす最大の理由は、将軍から「御恩」を受け、自身の生活基盤である土地の支配権を確実なものにする必要があったからです。具体的には、もともと所領していた土地の支配を認めもらう「本領安堵（ほんりょうあんど）」と、手柄を立てた際に新しい土地の地頭に任命してもらう「新恩給与（しんおんきゅうよ）」の2つが主な内容でした。守護の任命は幕府の地方統治の仕組みであり、個々の御家人に与えられる「御恩」の定義とは異なります。
問4	<b>答え 1</b> 源義経の追捕を名目に、全国的な軍事・警察権と徴税権を掌握するため	源頼朝は、壇ノ浦の戦い後に逃亡した源義経を捜索・逮捕することを正当な理由（名目）として朝廷と交渉し、全国に守護と地頭を設置する法的な許可を得ました。これによって幕府は、それまで朝廷や貴族が支配していた荘園や公領に対しても、武力的な警察権や経済的な徴税権を背景に介入することが可能になりました。
問5	<b>答え 1</b> 武士社会でそれまで行われてきた慣習を整理し、公平な裁判の基準を示すため。	北条泰時は、武士が理解しやすいように、それまでの武家社会の先例や道徳に基づいた内容を法制化しました。これにより、主従関係や土地の権利に関する争いを公平に解決し、幕府に対する御家人の信頼を高める狙いがありました。のちの室町・戦国時代の法にも大きな影響を与えています。
問6	<b>答え 1</b> 朝廷のある京都の治安を維持し、幕府の警察権を誇示することで、朝廷に対する支配力を強めるため	鎌倉幕府は、将軍が御家人の領地支配を保障する代わりに、軍役を通じて全国的な警察・軍事権を握りました。特に朝廷のある京都の警備（京都大番役）を幕府の指揮下で行うことは、幕府が政治的権威を高め、全国支配を正当化する上で極めて重要な意味を持っていました。分割相続は鎌倉時代に行われていましたが、それが京都警備の目的ではありません。
問7	<b>答え 1</b> 執権の北条時宗が大陸を統治した元からの服属要求を拒否したため、二度の襲来を招くことになったが、九州の沿岸に石築地を築くなどして防戦した。	大陸を統治した元（モンゴル帝国）のフビライ・ハンは日本に服属を求めましたが、執権の北条時宗はこれを拒否しました。これにより文永の役、弘安の役という二度の侵攻を受けましたが、幕府は博多湾沿岸に「防塁（石築地）」を築くなどの準備を進め、集団戦法やてつほう（火器）を用いる元軍に対し、御家人らを動員して防戦を指揮しました。この戦いは防衛戦であったため、勝利しても新たな領土を得られず、後の恩賞問題が幕府衰退のきっかけとなりました。
問8	<b>答え 1</b> 運慶	鎌倉文化は、それまでの平安貴族による優美で繊細な文化とは異なり、新興勢力である武士の気風を反映した力強い作風が特徴です。東大寺は平氏による南都焼討で焼失しましたが、鎌倉時代初期に重源らの尽力で再建が進められました。その際、運慶ら慶派と呼ばれる仏師集団が、短期間でこの巨大な金剛力士像（阿形・吽形）を完成させました。選択肢にある雪舟は室町時代の水墨画家、一遍と道元は鎌倉新仏教の開祖であり、彫刻家ではありません。

問1 鎌倉時代の武士の家において、それまで行われていた「分割相続」には、ある重大な社会的な弊害がありました。その内容として正しいものはどれですか。（2022年 静岡公立入試 類似）

1. 世代交代を繰り返すたびに一族の領地が細分化され、生活が困窮する武士が増えた。
2. 長男のみがすべての領地を継ぐようになったため、次男以下の不満が高まり反乱が頻発した。
3. 幕府が土地の売買を全面的に許可したため、有力な商人にすべての領地が買い占められた。
4. 土地を分割する際に面積ではなく収穫量で分けたため、気候変動による飢饉の影響を強く受けるようになった。

問2 1192年に朝廷から征夷大将軍に任命され、それまでになかった本格的な武士の政権である鎌倉幕府を開いた人物は誰ですか。（2021年 岩手県公立入試 類似）

1. 源頼朝
2. 平清盛
3. 足利尊氏
4. 豊臣秀吉

問3 日蓮宗を含む鎌倉新仏教が、それまでの貴族を中心とした伝統的な仏教（旧仏教）と異なり、当時の武士や民衆に広く受け入れられた背景として、最も適切な理由はどれですか。（2023年 愛知公立入試 類似）

1. 悟りを開くための厳しい修行や、難しい経典の暗記を必要としない簡潔な教えを説いたため。
2. 朝廷の厚い保護を受け、国家の安泰を祈る大規模な儀式を専門的に行うようになったため。
3. 山奥に寺院を建て、俗世間から完全に隔離された環境で真理を追究することを重視したため。
4. 身分の高い貴族だけが救済されるという特権的な教えを広め、支配階級の支持を固めたため。

問4 モンゴル帝国はフビライ・ハンの時代に中国全土を統一しましたが、その際、それまで中国南部を支配していた王朝を滅ぼし、遊牧民族による初の中原（中国の中心部）統一を達成しました。この時、元によって滅ぼされた王朝の名前を次の中から選びなさい。（2022年 愛知公立入試 類似）

1. 南宋
2. 明
3. 金
4. 高麗

問5 1221年に後鳥羽上皇が幕府を倒そうとして兵を挙げた承久の乱の後、鎌倉幕府は西国の支配を強化するためにどのような措置を講じましたか。最も適切な説明を選びなさい。（2024年 神奈川県公立入試 類似）

1. 上皇側の所領を没収して東国の武士を新補地頭として配属し、さらに朝廷の監視と西国の統括を行う六波羅探題を設置した。
2. 全国に守護・地頭を設置する権利が初めて認められたことを受けて、すべての荘園に地頭を送り込み、朝廷の徴税権を完全に停止させた。
3. 豊臣秀吉が北条氏を滅ぼした際と同様に、西国の武士から武器を没収する刀狩を行い、幕府による一元的な兵農分離を断行した。
4. 朝廷の権威を否定するために征夷大将軍の職を廃止し、執権が京都に常駐して直接天皇の政務を代行する仕組みを整えた。

問6 1221年、鎌倉幕府の混乱に乗じて朝廷の権力を取り戻そうとした後鳥羽上皇が、幕府を倒すために兵を挙げた出来事を何といいますか。（2021年 愛媛公立入試 類似）

1. 承久の乱
2. 保元の乱
3. 平治の乱
4. 応仁の乱

問7 鎌倉時代、源平の争乱で焼失した東大寺南大門が再建される際、その建築には当時の中国から伝わった新しい様式が取り入れられた。この建築様式が伝わった中国の王朝として正しいものはどれか。（2025年 青森県公立入試 類似）

1. 隋
2. 唐
3. 宋
4. 元

問8 鎌倉幕府が1297年に「永仁の徳政令」を発布せざるを得なくなった背景として、最も適切な説明はどれですか。元寇（文永の役・弘安の役）後の社会状況に着目して答えなさい。（2024年 石川公立入試 類似）

1. 二度にわたる防衛戦において新たな領土を獲得できなかったため、十分な恩賞を与えられず、借金に苦しむ御家人が増えたから。
2. 承久の乱以来、西国の支配を強めるための戦費が膨らみ、御家人の負担を軽減するために土地の売買を奨励したから。
3. 北条氏による執権政治への不満が高まり、有力な守護たちが幕府の許可なく独自に土地の返還を始めたから。
4. 博多湾沿いに防塁を築くための多額の費用を御家人が負担したことで、貨幣経済が衰退し、物々交換による救済が必要となったから。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 世代交代を繰り返すたびに一族の領地が細分化され、生活が困窮する武士が増えた。	鎌倉時代に一般的だった分割相続は、子孫が増えるたびに土地が細かく分けられる仕組みであったため、数世代経つと一人の御家人が得られる収入は極めてわずかなものになってしまいました。この状態を「領地の細分化」と呼びます。武士は自力で軍装備を整えなければならなかったため、この経済的な困窮は御家人制度の根幹を揺るがす深刻な問題となりました。のちにこの弊害を避けるため、一人の子がすべてを継ぐ単独相続へと変化していくことになります。
問2	<b>答え 1</b> 源頼朝	平氏が壇ノ浦の戦いで滅ぼした後、1185年に守護・地頭を設置する権利を得て全国的な支配権を固めました。1192年には征夷大將軍となり、鎌倉を拠点とした武士による政治の仕組みを整えました。選択肢にある平清盛は平安時代末期に武士として初めて太政大臣となった人物、足利尊氏は室町幕府の創始者、豊臣秀吉は安土桃山時代に天下を統一した人物です。
問3	<b>答え 1</b> 悟りを開くための厳しい修行や、難しい經典の暗記を必要としない簡潔な教説を説いたため。	鎌倉新仏教の大きな特徴は、「選択（せんちやく）・専修（せんじゆ）・易行（いぎよう）」にあります。日蓮宗であれば題目を唱えること、浄土宗であれば念仏を唱えることなど、特定のやさしい修行に絞ることで、学問や時間的な余裕がない武士や民衆でも救われると説いたため、急速に広まりました。これに対し、旧仏教である真言宗などは、貴族の加持祈祷や学問的な傾向が強いものでした。
問4	<b>答え 1</b> 南宋	モンゴル帝国は、まず北方の「金」を滅ぼした後、1271年にフビライ・ハンが国号を「元」と改めました。その後、1279年に中国南部の「南宋」を滅ぼしたことで、中国全土の支配権を確立しました。この統一により、ユーラシア大陸にまたがる大規模な交易ネットワークが形成され、東西の文化交流がより一層活発になりました。
問5	<b>答え 1</b> 上皇側の所領を没収して東国の武士を新補地頭として配属し、さらに朝廷の監視と西国の統括を行う六波羅探題を設置した。	承久の乱で幕府方が勝利したことにより、幕府の権力はそれまで影響力が弱かった西国（西日本）にも及ぶようになりました。敗れた上皇方の所領（約3000か所）は幕府に没収され、そこに功績のあった東国武士が「新補地頭」として任命されました。また、京都には朝廷の監視や西国の軍事・裁判を担う「六波羅探題」が設置され、幕府の支配体制は全国的なものへと拡大しました。
問6	<b>答え 1</b> 承久の乱	鎌倉幕府の3代将軍・源実朝が暗殺された後の混乱を機に、後鳥羽上皇が執権の北条義時を討つよう命じて起こした反乱です。幕府軍が勝利した結果、朝廷を監視するために六波羅探題が設置され、幕府の支配力が西日本にも強く及ぶようになりました。応仁の乱は室町時代に起こった戦いです。
問7	<b>答え 3</b> 宋	鎌倉時代初期、重源を中心に行われた東大寺の再建事業では、当時日宋貿易などを通じて交流があった中国の宋（南宋）から伝わった、大仏様（天竺様）と呼ばれる雄大で力強い建築様式が採用された。選択肢にある元は、鎌倉時代中期以降に日本へ襲来（元寇）した王朝であり、東大寺再建の時期とは異なる。
問8	<b>答え 1</b> 二度にわたる防衛戦において新たな領土を獲得できなかったため、十分な恩賞を与えられず、借金に苦しむ御家人が増えたから。	元寇（文永の役・弘安の役）は、モンゴル帝国という外部勢力からの侵攻を退けるための防衛戦でした。国内の反乱を鎮圧した承久の乱などとは異なり、敵から没収して恩賞として配るための土地が得られませんでした。そのため、重い軍役を負担した御家人は、生活のために所領を売却したり質に入れたりして困窮しました。幕府は主従関係の基盤である「御恩と奉公」の仕組みを維持するため、御家人の所領を取り戻させようと永仁の徳政令を出しましたが、結果的に経済の混乱を招き、幕府の権威が揺らぐ原因となりました。

問1 鎌倉時代に北条泰時が「御成敗式目」を制定した最大の理由として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 広島公立入試 類似）

1. 朝廷が定めた律令を全国に広め、天皇による法治国家を再建するため
2. 地頭と荘園領主間の紛争を公平に裁く基準を設け、武士社会の安定を図るため
3. 守護大名による領国支配を強化し、幕府の権威を全国の農民に知らしめるため
4. 蒙古襲来に備えるため、武士に対して軍役や奉公の義務を厳格に定めたため

問2 1221年に起こった承久の乱ののち、鎌倉幕府の支配力が西日本まで及びようになると、各地で地頭と荘園領主との間の紛争が急増しました。これに対し、3代執権の北条泰時が、御家人同士や地頭と領主の争いを公平に裁くための基準として1232年に制定した、武士独自の法を何と称しますか。（2023年 山口公立入試 類似）

1. 御成敗式目（貞永式目）
2. 公事方御定書
3. 十七条の憲法
4. 建武式目

問3 鎌倉幕府において、初代将軍である源頼朝の死後、その妻の家系である北条氏が代々就任した役職を何と称しますか。将軍を補佐し、実質的な幕府の最高権力者として政務を統括した職名を答えなさい。（2015年 佐賀公立入試 類似）

1. 執権
2. 管領
3. 評定衆
4. 探題

問4 11世紀末、キリスト教の聖地であるエルサレムをイスラム教勢力から奪回するため、ローマ教皇の呼びかけに応じて組織された軍隊を何と称するか。（2022年 青森県公立入試 類似）

1. 十字軍
2. ルネサンス
3. 大航海時代
4. プロテスタント

問5 平安時代から鎌倉時代にかけての宗教の変遷について述べた文章のうち、正しいものはどれですか。当時の状況として、平安時代には阿弥陀如来を信じてその名を唱える修行が普及し、鎌倉時代には自らの力で悟りを開く修行が武士の間で支持された背景をふまえて答えなさい。（2024年 福井公立入試 類似）

1. 平安時代には浄土教による念仏が広まり、鎌倉時代には禅宗による座禅が広まった。
2. 平安時代には禅宗による座禅が広まり、鎌倉時代には浄土教による念仏が広まった。
3. 平安時代には祈祷による加持祈祷が広まり、鎌倉時代には写経による供養が広まった。
4. 平安時代には写経による供養が広まり、鎌倉時代には祈祷による加持祈祷が広まった。

問6 東大寺南大門の金剛力士像を制作した運慶や快慶らが活躍した時代は、彫刻においても「写実的で力強い」表現が好まれました。このような文化が生まれた背景や特徴について説明したものと、最も適切なものを選択してください。（2021年 神奈川県公立入試 類似）

1. 武士が政治の実権を握り、彼らの力強さや素朴さを好む気風が反映されたため
2. 国風文化の影響が強まり、貴族の好む繊細で優美な様式が完成されたため
3. 遣唐使によってもたらされた唐の進んだ技術が、国際色豊かな表現を生んだため
4. 江戸の町人による経済発展を背景に、華やかで豪華な装飾が好まれたため

問7 鎌倉時代において、3代執権の北条泰時が制定した、武士社会の慣習に基づいて裁判の基準を明確にした法典の名称を答えなさい。（2025年 栃木公立入試 類似）

1. 御成敗式目
2. 武家諸法度
3. 養老律令
4. 十七条の憲法

問8 鎌倉幕府を支えた「御恩と奉公」の仕組みにおいて、御家人が将軍に対して果たすべき義務である「奉公」の具体的な内容を説明したものと、最も適切なものはどれですか。（2018年 高知公立入試 類似）

1. 平時に京都や鎌倉の警備を担当し、戦時には軍勢として合戦に参加すること
2. 執権として将軍を補佐し、幕府の政治や裁判の実務を代行すること
3. 自分の所有する土地をすべて将軍に寄進し、小作人として耕作に励むこと
4. 幕府の役職である管領に就任し、将軍の跡継ぎ問題を調整すること

問9 鎌倉幕府の組織図において、執権の管理下に置かれ、侍所・政所・問注所といった中央機関と並んで重要視された地方機関があります。この機関の名称と、その設置の契機となった出来事の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2018年 香川公立入試 類似）

1. 名称：六波羅探題、出来事：承久の乱
2. 名称：鎮西探題、出来事：元寇（文永の役・弘安の役）
3. 名称：京都所司代、出来事：関ヶ原の戦い
4. 名称：鎌倉府、出来事：室町幕府の成立

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 2</b> 地頭と荘園領主の間の紛争を公平に裁く基準を設け、武士社会の安定を図るため	承久の乱の後、幕府は多くの「新補地頭」を任命しましたが、彼らが荘園領主に納めるべき年貢を滞らせるなどのトラブルが絶えませんでした。当時はまだ朝廷の律令や複雑な慣習が裁判の基準となっており、武士にとっては不利なことも多かったため、泰時は武士の道理や慣習に基づいたわかりやすい裁判の基準を示し、幕府による公正な支配を確立しようとしていました。
問2	<b>答え 1</b> 御成敗式目（貞永式目）	承久の乱に勝利した鎌倉幕府は、西日本の朝廷側の領地に地頭を任命するなど、その支配力を全国へと広げました。しかし、地頭の勢力拡大にともない、土地の境界や年貢の納入をめぐるトラブルが多発したため、北条泰時は武士の慣習や「道理」を基準とした公平な裁判を行うためにこの法を定めました。これは武士による最初の体系的な法律です。
問3	<b>答え 1</b> 執権	源頼朝の死後、幕府の運営は有力御家人による合議制を経て、北条氏が独占的に政治を主導する体制へと移行しました。北条氏は「執権」という将軍の補佐役の地位を世襲し、承久の乱などを経てその権力を不動のものにしました。管領は室町幕府において将軍を補佐した職名であり、評定衆は幕府の合議機関の構成員を指します。
問4	<b>答え 1</b> 十字軍	1095年のクレルモン公会議において、ローマ教皇ウルバン2世が聖地奪回を呼びかけたことで結成されました。この遠征は断続的に約200年間行われました。
問5	<b>答え 1</b> 平安時代には浄土教による念仏が広まり、鎌倉時代には禅宗による座禅が広まった。	平安時代の中期から後期にかけて、阿弥陀如来を信じて「南無阿弥陀仏」と唱えることで極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土教（念仏）が貴族から民衆へと普及しました。これに対し、鎌倉時代には中国から禅宗が伝わり、自ら座禅を組む修行によって悟りを開こうとする教えが、規律を重んじる武士の気風に受け入れられ、幕府の保護を受けて発展しました。
問6	<b>答え 1</b> 武士が政治の実権を握り、彼らの力強さや素朴さを好む気風が反映されたため	鎌倉文化は、新興勢力である武士の気風や、新仏教の普及による民衆のエネルギーを反映しています。そのため、平安時代の貴族的な「繊細・優美」なスタイルとは異なり、現実をありのままに捉えようとする「写実的」な表現や「力強さ」が重視されました。運慶らの彫刻は、その精神を象徴する代表的な事例です。
問7	<b>答え 1</b> 御成敗式目	1232年（貞永元年）に北条泰時が制定した日本初の武家法です。承久の乱の後、幕府の支配力が広がる中で増加した土地争いなどの裁判を公平に行うため、武士社会の道徳や慣習をもとに作られました。後の時代の武家法の基本となりました。
問8	<b>答え 1</b> 平時に京都や鎌倉の警備を担当し、戦時には軍勢として合戦に参加すること	御家人は将軍から受けた恩恵に報いるため、軍事的な役割を果たす必要がありました。これには、京都の警備を行う京都大番役や鎌倉の警備を行う鎌倉番役、そして有事の際に武装して駆けつける軍役などが含まれます。選択肢にある「執権」は北条氏が世襲した役職であり、「管領」は室町時代の役職であるため、鎌倉時代の一般的な御家人の奉公とは区別する必要があります。
問9	<b>答え 1</b> 名称：六波羅探題、出来事：承久の乱	六波羅探題は、鎌倉幕府の職制において執権（北条氏が世襲した役職）の下に置かれた非常に重要な地方機関です。1221年の承久の乱に勝利した結果、それまで上皇の勢力下にあった西国の支配権を幕府が握ることになり、その統治のために設置されました。鎮西探題は九州の防衛、京都所司代は江戸幕府の機関、鎌倉府は室町幕府の機関である点に注意してください。

問1 鎌倉時代から室町時代にかけての日本の農業について述べた文として、当時の技術や社会背景をふまえて最も適切なものはどれですか。14世紀末の農業の様子を描いた絵巻物の記録などにに基づき、正しい内容を選びなさい。(2017年 鳥取公立入試 類似)

1. 西日本を中心に、同じ耕地で夏に米、冬に麦を栽培する二毛作が広まり、牛馬による耕作も行われるようになった。
2. 石包丁を用いて稲の穂の部分だけを摘み取る収穫方法が全国に広まり、食料生産が安定した。
3. 備中鍬と呼ばれる深く耕すための農具が発明されたことで、大規模な新田開発が幕府主導で進められた。
4. 海外輸出を目的とした製糸業が農村の副業として定着し、全国の耕地で桑の栽培が米より優先された。

問2 源頼朝が幕府の拠点として鎌倉を選んだ理由には、その独特な地形が関係しています。当時の鎌倉の地形的な特徴と利点について説明した文として、最も適切なものはどれですか。(2015年 岐阜公立入試 類似)

1. 三方を山に囲まれ、南側が海に面しているため、敵からの攻撃を防ぎやすい要害の地であった。
2. 広大な平野が広がっており、大規模な騎馬軍団を訓練したり、農地を拡大したりするのに適していた。
3. 京都から続く平坦な道が整備されており、朝廷との連絡を迅速に行うことができる交通の要所であった。
4. 巨大な川の河口に位置しており、内陸部への水運を利用して大量の年貢米を集めるのに適していた。

問3 鎌倉時代を代表する仏師である運慶の作風や活動背景について、正しく述べているものはどれですか。(2022年 新潟県公立入試 類似)

1. 武士の好みを反映した力強く写実的な彫刻を追求し、東大寺南大門の金剛力士像などを手がけた。
2. 幕府の保護を受けて中国(明)へ渡り、水墨画の技法を取り入れた新しい芸術の形式を確立した。
3. 念仏を唱えながら踊ることで、地方の武士や民衆の間に新しい仏教の信仰を広める活動を行った。
4. 山の中で厳しい修行を行い、座禅によって自ら悟りを開くことを説く新しい宗派を広めた。

問4 1185年、源頼朝は平氏を滅ぼした後に朝廷から許可を得て、国ごとに軍事・警察を担う役職を、荘園や公領ごとに年貢の徴収や管理を担う役職をそれぞれ設置しました。この二つの役職の組み合わせとして正しいものを選択してください。(2025年 山口公立入試 類似)

1. 守護・地頭
2. 国司・郡司
3. 執権・連署
4. 検非違使・勘解由使

問5 鎌倉時代、平氏一族の繁栄から滅亡までの過程を描いた「平家物語」は、ある人々が楽器を奏でながら語り歩くことによって広く民衆に伝わりました。この物語を語り広めた人々と、この作品が属する文学ジャンルの組み合わせとして適切なものはどれですか。(2026年 群馬公立入試 類似)

1. 琵琶法師 — 軍記物語
2. 琵琶法師 — 随筆
3. 念仏僧 — 軍記物語
4. 白拍子 — 物語文学

問6 1185年に源頼朝が朝廷から認めさせ、全国の荘園や公領に設置した役職について述べたものとして正しいものはどれか。(2016年 奈良公立入試 類似)

1. 荘園や公領の管理、年貢の徴収、警察の役割を担った地頭
2. 国ごとに1人置かれ、軍事や警察の職務を担った守護
3. 北条氏が世襲し、将軍を補佐して政治の実権を握った執権
4. 征夷大將軍に任命され、鎌倉に幕府を開いた源頼朝

問7 鎌倉幕府の統治の仕組みにおいて、幕府の最高権力者である将軍の下に置かれた「執権」という役職の説明として、最も適切なものを選びなさい。(2021年 秋田県公立入試 類似)

1. 北条氏が代々受け継ぎ、将軍に代わって幕府の政治を主導した実務上の最高責任者
2. 源氏の血筋を引く者のみが就任し、軍事指揮権を専門に行使した役職
3. 京都の朝廷を監視するために設置され、西国の御家人を統制した役職
4. 足利氏が幕府を開く際に、将軍を補佐するために新設した管領の前身となる役職

問8 承久の乱の後、鎌倉幕府の支配体制は大きく変化しました。この時期の状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。(2026年 鳥根公立入試 類似)

1. 幕府を支持する御家人が東日本に限定されていた状況から、乱の勝利によって没収した領地に地頭を任命することで、幕府の支配力が西日本を含む全国へ広がった。
2. 元軍の侵攻に備えるため、九州地方の北部に鎮西探題を設置し、沿岸部の防備や西国の御家人の指揮を強化した。
3. 朝廷との融和を図るため、公家と武士の両方の性質を持つ公武合体政策が進められ、京都の治安維持は朝廷が自ら行うこととなった。
4. 徳川氏が朝廷や西国大名を監視するために京都所司代を設置し、天皇や公家の行動を厳しく制限する法を定めた。

## 答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**  
**西日本を中心に、同じ耕地で夏に米、冬に麦を栽培する二毛作が広まり、牛馬による耕作も行われるようになった。**
- 鎌倉時代、西日本から始まった二毛作は、農業生産力を飛躍的に高めました。これは夏に主食となる米を、冬には裏作として麦を育てる仕組みです。また、この時期には牛や馬に農具を引かせて田畑を深く耕す「牛馬耕」や、草木を焼いた灰を肥料にする「草木灰」の利用、灌漑用の水車の普及など、技術的な進歩が重なったことで中世の農業は大きく発展しました。選択肢にある石包丁は弥生時代、備中鍬は江戸時代、製糸業の近代化は明治時代以降の特徴であるため、時代背景が異なります。
- 問2** **答え 1**  
**三方を山に囲まれ、南側が海に面しているため、敵からの攻撃を防ぎやすい要害の地であった。**
- 鎌倉は、背後に山を背負い、前方に海が広がる「守りやすく攻めにくい」地形をしていました。源頼朝はこの地理的優位性に注目し、武家政権の本拠地を築きました。山を切り開いて作られた「切通（きりどおし）」という道以外からは侵入が難しい構造になっていました。
- 問3** **答え 1**  
**武士の好みを反映した力強く写実的な彫刻を追求し、東大寺南大門の金剛力士像などを手がけた。**
- 鎌倉時代は武士が政治の実権を握った時代であり、文化の面でも、より現実的で力強い表現が求められるようになりました。運慶は、その時代の要求に応えるように、解剖学的に正確な筋肉の動きや、生き生きとした表情を持つ彫刻を多く残しました。特に東大寺南大門の金剛力士像は、慶派の写実主義が頂点に達した作品と評されています。他の選択肢は、順に室町時代の雪舟、鎌倉新仏教の一遍（時宗）、道元（曹洞宗）の活動について述べたものです。
- 問4** **答え 1**  
**守護・地頭**
- 源頼朝は弟の源義経を捕らえるという名目で、全国に「守護」と「地頭」を配置する権利を得ました。守護は主に令制国単位で軍事や治安維持を担当し、地頭は各荘園などで年貢の取り立てや土地の管理を行いました。これにより、鎌倉幕府による地方支配と土地支配の基盤が固まりました。
- 問5** **答え 1**  
**琵琶法師 — 軍記物語**
- 鎌倉時代には、武士の活躍や戦乱の様子をテーマにした軍記物語が数多く作られました。その代表作である平家物語は、琵琶を弾きながら物語を語る「琵琶法師」と呼ばれる人々によって、文字を読めない人々も含めた幅広い層に普及しました。選択肢にある随筆の代表例としては、同時期に鴨長明が記した『方丈記』などがあります。
- 問6** **答え 1**  
**荘園や公領の管理、年貢の徴収、警察の役割を担った地頭**
- 平氏を滅ぼした源頼朝は、対立した弟の源義経を捕らえるという名目で、1185年に後白河法皇に守護・地頭の設置を認めさせました。地頭は各荘園や公領（国領）ごとに置かれ、土地の管理や年貢の徴収、地域の警察活動といった実務的な支配を担いました。これにより、幕府の支配力が地方の末端まで及ぶようになりました。
- 問7** **答え 1**  
**北条氏が代々受け継ぎ、将軍に代わって幕府の政治を主導した実務上の最高責任者**
- 執権はもともと政所（まんどころ）の長官を指す言葉でしたが、北条時政が就任して以降、幕府の政務全般を統括する重要なポストとなりました。源氏の将軍が途絶えた後も、北条氏は皇族や公卿を将軍として迎えつつ、自らは執権として実権を維持し続けました。
- 問8** **答え 1**  
**幕府を支持する御家人が東日本に限定されていた状況から、乱の勝利によって没収した領地に地頭を任命することで、幕府の支配力が西日本を含む全国へ広がった。**
- 承久の乱の前まで、幕府の勢力は主に東日本を中心としていましたが、乱の結果として上皇側から没収した3000カ所以上の所領に新補地頭を任命したことで、その支配力は西日本まで一気に拡大しました。この西国支配の拠点として機能したのが六波羅探題です。

問1 源頼朝が1185年に地頭や守護を設置する権利を朝廷に認めさせた、歴史的な背景や目的として最も適切な説明はどれか。

(2016年 奈良公立入試 類似)

- 源義経の追捕を名目に、全国的な軍事・警察権と徴税権を掌握するため
- 元寇による国家的危機に際し、九州沿岸の警備を強化するため
- 承久の乱で勝利した結果、西日本に控えていた朝廷勢力を監視するため
- 守護大名の権力増大を抑え、将軍による専制政治を確立するため

問2 鎌倉幕府が博多湾の海岸線に沿って「石築地（防塁）」を築いた目的や、その軍事的な効果についての説明として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 佐賀公立入試 類似)

- モンゴル軍の再上陸を困難にさせ、日本側の武士が石垣の背後から弓矢で攻撃するのを有利にするため。
- モンゴル軍が使用した「てつはう」と呼ばれる火薬兵器の爆風を、石垣の高さによって海側へ跳ね返すため。
- 博多の町を津波から守る防潮堤として活用すると同時に、幕府の土木技術を海外に示すため。
- 外国との交易窓口を博多一か所に限定し、許可のない船が着岸できないように物理的に封鎖するため。

問3 奈良時代、唐から5度の渡航失敗や失明という困難を乗り越えて来日した僧がいます。彼が当時の日本において、僧侶が守るべき規律として確立し、授けたものを何といいますか。 (2022年 栃木県公立入試 類似)

- 戒律
- 禪
- 念仏
- 加持祈祷

問4 源頼朝が全国に守護・地頭を設置する権限を朝廷に認めさせたことは、その後の日本の政治体制にどのような変化をもたらしたと考えられますか。その背景と目的を含めた説明としてふさわしいものを選びなさい。 (2026年 広島公立入試 類似)

- 朝廷が派遣していた国司の権限を完全に消滅させ、幕府が直接税金を徴収する中央集権体制を即座に完成させた。
- 武士が荘園や公領の実質的な支配権を握ることで、幕府が全国の武士を統制し、地方政治に介入する仕組みを整えた。
- 貴族による土地所有を全面的に禁止し、すべての土地を将軍の直轄地とすることで、封建社会を終わらせた。
- それまで続いていた律令制度の地方官職である国司や郡司と、武家側の守護・地頭を統合し、新しい文武両道の役職を作った。

問5 モンゴル（元）の襲来を退けたにもかかわらず、その後の鎌倉幕府の支配が急速に揺らぐ原因となった背景として、正しい説明はどれですか。 (2017年 群馬県公立入試 類似)

- 防衛に成功したものの、恩賞として与える土地が不足していたため、戦費で困窮した武士の不満が高まった。
- 襲来をきっかけに朝廷が政治の実権を取り戻し、幕府を倒すための兵を挙げたため。
- モンゴル軍との戦いを通じて、武士たちが幕府よりも天皇を重視する考えを持つようになったため。
- 幕府が防衛のために重い税を全国の農民に課したことで、大規模な一揆が各地で頻発したため。

問6 鎌倉時代、日蓮は社会の混乱や自然災害を背景に新しい教えを広めました。この教えが、平安時代までの天台宗などの伝統的な仏教と異なり、武士や民衆に受け入れられた理由として適切な説明はどれですか。 (2014年 和歌山公立入試 類似)

- 複雑な経典の読誦や厳しい修行ではなく、題目を唱えるという簡潔な行為で救われるとしたため
- 各地で一向一揆を起こし、政治的な支配に対抗することを民衆に推奨したため
- 国分寺を拠点として、国家の保護を受けながら大規模な寺院ネットワークを構築したため
- 座禅によって自分の力で悟りを開くことが、精神鍛錬を重んじる武士の気風に合致したため

問7 1221年に起こった戦乱において、後鳥羽上皇が率いる朝廷軍を破った鎌倉幕府が、その後の戦後処理として、朝廷の監視や外国の武士の統制を目的に京都に設置した役職は何ですか。 (2016年 高知公立入試 類似)

- 六波羅探題
- 京都守護
- 執権
- 問注所

問8 東大寺南大門には、運慶や快慶らによってわずか69日で制作されたとされる金剛力士像が安置されています。この像に見られるような、鎌倉時代の彫刻における表現上の工夫について説明したものと正しいものはどれですか。 (2024年 徳島公立入試 類似)

- 浮き出た血管や躍動する筋肉を表現し、力強い写実性を追求した
- 仏の慈悲深さを伝えるため、穏やかな表情と曲線的な造形を重視した
- 左右対称の構図を厳格に守り、静寂の中に荘厳さを表現した
- 金箔や宝石をふんだんに使い、極楽浄土の華やかさを再現した

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 源義経の追捕を名目に、全国的な軍事・警察権と徴税権を掌握するため	源頼朝は、壇ノ浦の戦い後に逃亡した源義経を捜索・逮捕することを正当な理由（名目）として朝廷と交渉し、全国に守護と地頭を設置する法的な許可を得ました。これによって幕府は、それまで朝廷や貴族が支配していた荘園や公領に対しても、武力的な警察権や経済的な徴税権を背景に介入することが可能になりました。
問2	<b>答え 1</b> モンゴル軍の再上陸を困難にさせ、日本側の武士が石垣の背後から弓矢で攻撃するのを有利にするため。	文永の役では元軍の上陸を許し、馬上の武士が個別に挑む日本の戦法が通用せず苦戦しました。その反省から、2度目の弘安の役では元軍を海上に釘付けにする作戦がとられました。築かれた防塁は、元軍の馬による上陸を阻むとともに、日本側の武士が身を隠しながら得意の弓矢で射かける拠点として機能し、元軍に大きな損害を与えました。
問3	<b>答え 1</b> 戒律	鑑真は、日本の聖武天皇の招きに応じ、僧侶としての資格を認めるための正式なルールである「戒律」を伝えるために来日しました。これにより、それまで自分勝手に僧侶を名乗る者が多かった日本の仏教界において、国家公認の僧侶を育成する仕組みが整えられました。鑑真は唐招提寺を建立し、多くの僧侶に戒律を授けました。
問4	<b>答え 2</b> 武士が荘園や公領の実質的な支配権を握ることで、幕府が全国の武士を統制し、地方政治に介入する仕組みを整えた。	守護・地頭の設置は、それまで朝廷や貴族が中心だった地方支配の枠組みに、武力を持った幕府が介入する決定的な転換点となりました。特に地頭が荘園や公領に入り込み、土地の管理権を得たことで、現地の有力な武士（御家人）に経済的な裏付けを与え、彼らを幕府の指揮下に置くことが可能になりました。ただし、当初は国司の権限も残っており、朝廷と幕府による二重の支配構造となっていた点に注意が必要です。
問5	<b>答え 1</b> 防衛に成功したものの、恩賞として与える土地が不足していたため、戦費で困窮した武士の不満が高まった。	当時の武士にとっての恩賞は、主に敵から奪った土地を分配することでした。しかし、元寇は外国からの侵略を退ける防衛戦だったため、新たに分け与える土地がありませんでした。多額の軍費を自己負担して戦った御家人たちは、十分な報いを受けられなかったことで生活が困窮し、幕府への不信感を強めていきました。
問6	<b>答え 1</b> 複雑な経典の読誦や厳しい修行ではなく、題目を唱えるという簡潔な行為で救われるとしたため	平安時代までの仏教は、貴族中心で複雑な儀式や深い学問を必要とするものが主流でした。しかし、鎌倉時代に登場した日蓮宗は、題目を唱えるという「実行しやすい修行」を提示したため、文字が読めない民衆や日々の公務に追われる武士の間にも急速に広まりました。日蓮は、法華経の教えを中心に据えることで、個人の救済と国家の安泰を同時に追求しました。
問7	<b>答え 1</b> 六波羅探題	承久の乱に勝利した幕府は、敗れた後鳥羽上皇を隠岐へ流すと同時に、これまで幕府の影響力が弱かった朝廷や西国を監視する必要性に迫られました。そこで、京都の六波羅に拠点を置く「六波羅探題」という役職を新設し、朝廷に対する支配力を強めました。
問8	<b>答え 1</b> 浮き出た血管や躍動する筋肉を表現し、力強い写実性を追求した	運慶や快慶に代表される慶派の仏師たちは、それまでの伝統的な様式にとらわれず、解剖学的な正確さやダイナミックな動きを重視しました。金剛力士像では、怒りを見せる表情や強調された筋肉、血管の描写によって、武士が台頭した時代の力強さが表現されています。